

ストーリー

修験の聖地——修験道はここから始まった

大阪と和歌山の府県境を東西に走る和泉山脈、大阪と奈良の府県境に南北に聳える金剛山地——総延長112kmに及ぶこの峰々帯は「葛城」と呼ばれ、多くの神々が住まう山として人々に崇められておりました。

7世紀、その麓の地である現在の奈良県御所市で生まれたのが役行者^{まんのぎやうじや}です。役行者は、修験道の開祖であると言われていますが、その役行者が最初に修行を積んだのがこの地です。

世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の一部である奈良の大峰山は、役行者が「葛城修験」を開いた後に移った修行の地であるとされており、「葛城修験」は、この大峰山とともに、修験者たちにとって最も重要な行場であり、必ず修行しなければならない地であるとされてきました。

この地には、役行者開基若しくは役行者作の仏像がある、役行者を本尊とする、または役行者の母の墓がある…等役行者にまつわるエピソードが残る寺社や祠堂が数多く存在します。

役行者は、また、この地に法華経8巻28品(品くほん)＝仏典の章や篇)を1品ずつ埋納したとも伝えられており、その法華経が納められた1～28番の経塚と滝や巨石、寺社や祠などを巡って行う修行や行場を総称し「葛城修験」と呼ばれています。



大和葛城山

海から始まる修行の道



友ヶ島の行場

最初の経塚である「序品窟」は、山岳修行を行う修験道には珍しく和歌山市加太沖に浮かぶ友ヶ島4島のうちの虎島にあり、普段観光客が汽船で訪れる沖ノ島から干潮時によりやく現れる岩場を歩いて渡ります。大きな石や岩を伝い、頭をぶつけそうになりながら狭い洞窟に入って見上げると「妙法蓮華経序品第一」と彫られた背の高さほどの花崗岩の石碑が建っています。その前で修験者たちは法螺貝を吹き、香を焚き、経をあげ、傍らに碑伝(ひで)という木札を置いていきます。碑伝には入峯の年月日や名前が書かれており、今でも各地から修験者たちが修行に訪れていることがわかります。経塚とされているものには、石碑以外にも山中にひっそりと佇む小さな石祠や大人が10人は乗れそうな川中の岩など様々な場所に様々な大きさや形のものがあります。



1番経塚

地域の人々とつながる修行の地

経塚以外に修行を行う場には、前述の役行者ゆかりの寺社もあれば、西国二十三所の札所など当地の有名な寺社も含まれています。

また、一般的に、修験道の修行は、深い山の中で行うものですが、葛城修験の地に連なる山々はさほど高くないことから、他の修験の地に比べて集落との関わりが強く、修験者たちは地域の信仰にも深く関わってきました。

特に大阪府南西部では、生活の根幹であり、農業などに欠かせない水に対する信仰は極めて重要であり、里にもたらされる水に祈りを捧げるため、滝や雨乞いの地、水に関わる社も修験者たちの行所になりました。雨乞いの踊りが、今も岸和田市(葛城踊り)や和泉市(笹踊り)で受け継がれています。

一方、修験者たちの修行は、里人に支えられてもきました。

有名なエピソードがあります。

お寺に祀られている役行者像や役行者の肖像画の両脇には、前鬼・後鬼という夫婦の鬼神がいます。この二鬼は、役行者の従者として働いておりました。役行者は二鬼に、役行者亡き後も修験者たちの修行を支えることを約束させます。

紀の川市中津川という地には、「葛城修験」において最も重要な儀式である「葛城灌頂」が行われる行所があります。江戸時代には、京都の聖護院門跡が、朝廷と幕府の両方からの依頼で、天下泰平を祈禱する護摩を焚いていた場所です。この地には、修験者たちのために行場を管理し、草を刈り、道を修繕するなどしている家がありますが、それは前鬼・後鬼の5人の子どもたち(五鬼)の子孫の家であ



葛城踊り



役行者

ると言われています。1,300年にわたり役行者との約束を守って修験者たちの修行を支え続けているのだ、と。

また、役行者以来、修験者を宿泊させるなど修験者を迎える「迎之坊」という役割を果たしてきている和歌山市加太の向井家や、修行の休息所として利用された大阪府泉佐野市の豪農、奥家などにも関連資料が残っています。今も修験者の来訪を里人が出迎え、湯茶などによる接待を行い、共に地域の寺社に参拝する地域も少なくありません。「葛城修験」は修験者が自分たちだけで修行を行うものではなく、当地の人々の信仰や生活と密接に関わってきたのです。



中津川行者堂にて

修験道は、明治時代初期の廃仏毀釈や修験宗廃止令により衰退し、それとともに、修験者達をもてなす宿なども次々と廃業していきました。修験道の聖地である「葛城修験」でさえ、修験者たちが修行を行った行所や信仰の対象であった経塚なども荒れ果て、やがて、そこに至る道さえも廃れようとしていました。しかし、戦後以降、修験者たちは「葛城修験」の本格的な復興に動き出し、地域の人々と協力しながら、山々に分け入り、行所へと続く道を探し、荒れ果てた経塚を見つけ出して元の場所に戻し、再び修験道の厳しい修行を始めたのです。

葛城修験の今、そしてこれから



多くの女性修験者たち

今も多くの修験者たちがこの「葛城修験」で修行を行っています。前述の大峰山が女人禁制の修行の地である一方、「葛城修験」は多くの女性修験者たちをも受け入れています。112kmにわたり展開する経塚や行所には、道なき道をかき分け、崖をよじ登り、沢を伝うなど過酷な条件をクリアしなければ辿り着けないところもたくさんあり、修験者たちも1日、2日ではどうも回りきれません。

しかし、一方で、里に近かったことが功を奏し(若しくは災いとなり)、都市開発の影響を受けて行所のすぐ近くまで車の乗り入れができるところがあるなど、アクセスがよくなった箇所も存在します。

国内外の多くの旅人が行き交う空の玄関口——関西国際空港とは目と鼻の先、言うまでもなく大阪の大都市圏や外国人観光客に人気の高い京都や高野山もすぐ近くです。

また、行所への道とリンクする葛城の尾根道は、和泉山脈の近畿自然歩道や槇尾山～金剛山～二上山をつなぐダイヤモンドトレールとして整備され、美しい自然と触れあうことを求める多くのハイカーたちにも歩き継がれています。

都会のすぐ近くにありながら、都会の喧噪を離れ、修験者の求める道を歩き、行所の周りで四季折々に変化する美しい自然の中にゆっくりと身を置くこともできます。犬鳴山七宝瀧寺(泉佐野市)が主催する1日修験体験



修行体験

の滝行や岩場から身を乗り出す覗きなど厳しい修行の一端を体験すれば、自分自身を見つめ直し新たな人生の一步を踏み出すきっかけにもなるでしょう。

ハイキングでこの地を訪れた時、滝の音と共に聞こえてくるのは法螺貝の響きかもしれません。ふと見ると木立の中にひっそり佇むのは、法華経が埋納された経塚なのかも知れません。すれ違うのは、鈴懸を身に纏い頭巾を戴き最多角念珠を手にして行所を巡る修験者なのかも知れません。

修験者や地域の人々が大切にしてきた修験道

はじまりの地—「葛城修験」

修験者たちの思いとそれを受け止める地域の人々、そして葛城の自然や文化を楽しむ人々の往来が続く限り、これからも葛城修験は歴史を刻んでいくのです。

ダイヤモンドトレール



ストーリーの構成文化財一覧表

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
経塚				
1	友ヶ島 序品窟	未指定 (史跡)	葛城修験1番経塚。友ヶ島には5つの行所があり、序品窟は4つの島からなる友ヶ島東端の虎島にある。海に面した巨大な岩盤の割れ目にできた洞窟であり、江戸時代に建てられた石碑が今も残る。	和歌山市
2	神福寺跡 方便品	未指定 (史跡)	葛城修験2番経塚。神福寺は、江戸時代の記録で当時の隆盛と寺域がわかる。現在は、寺跡に小さい石祠が立つ。	大阪府泉南郡 岬町
3	大福山 譬喩品	未指定 (史跡)	葛城修験3番経塚。役行者の母を祀る墓の谷から、さらに雲山峰の山頂に位置する。この3番経塚の所在地については、大福山の山頂の松を「印の松」のように扱って、大福山を3番経塚とする説もある。	和歌山市
	雲山峰 譬喩品	未指定 (史跡)		
4	さくら地蔵 信解品	未指定 (史跡)	葛城修験4番経塚。『葛嶺雑記』には「さくら地蔵を三十歩ゆきて梵字石あり」と記されている。その梵字石とされる石碑は現在、境谷入口に立つ。和泉砂岩製の自然石で、文安5(1448)年銘がある。また、現JR 山中溪駅南側に所在する、永禄12(1569)年銘の六十六部供養塔石碑を当経塚とする説もある。	大阪府 阪南市
5	倉谷山 薬草喩品	未指定 (史跡)	葛城修験5番経塚。高さ65cmの石祠で南向きにあり、内部には梵字が彫っている。	和歌山県 紀の川市
6	志野峠 授記品	未指定 (史跡)	葛城修験6番経塚。志野峠は修験の道にとって重要な位置になり、峠部の平坦地中央に地蔵石仏と自然石の経塚が立つ。	和歌山県 紀の川市
7	中津川 化城喩品	未指定 (史跡)	葛城修験7番経塚。葛城の伝法灌頂という特殊な儀礼が行われる行所であり、行者堂は歴史の重みを感じる。	和歌山県 紀の川市
8	犬鳴山七宝瀧寺鈴杵ヶ嶽 五百弟子受記品	未指定 (史跡)	葛城修験8番経塚。葛城修験の中でも信仰を集める経塚の一つ。長禄3(1459)年の板碑が残っている。	大阪府 泉佐野市
9	嶺の龍王 授学無学人記品	未指定 (史跡)	葛城修験9番経塚。石祠の中には天正年間の金剛童子碑が安置される。隣接する龍王は牛瀧、津田、近木の三川の源流に位置し、昔は、和泉の平野を潤す神として崇められた。	和歌山県 紀の川市
10	大威徳寺 法師品	未指定 (史跡)	葛城修験10番経塚。牛瀧山大威徳寺はかつて壮大な天台修験の大伽藍、僧堂を誇った。現在、多宝塔は重要文化財。	大阪府 岸和田市
11	七越峠経塚山 見宝塔品	未指定 (史跡)	葛城修験11番経塚。この経塚は経塚山山頂にあり、和泉砂岩や礫岩を積み重ねた塚としている。近くにある行所七大竜王社は、地域の人々に「雨乞いの神」として尊崇されている。	大阪府 和泉市
12	護摩のたわ朴留 堤婆達多品	未指定 (史跡)	葛城修験12番経塚。この品では、善悪、性別、年齢に係わらず仏の教えの前、修行の中では皆平等だという精神が説かれている。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町
13	むかい多和 勸持品	未指定 (史跡)	葛城修験13番経塚。幕末の『葛嶺雑記』に、「鎌の多輪」「向のたわ」とも記されている。現在は、山頂の松の根元に大日如来と刻された和泉砂岩の経塚がある。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町

14	みなみかづらぎさんかがみのやど 南葛城山鏡宿 あんらくぎょうほん 安楽行品	未指定 (史跡)	葛城修験14番経塚。『紀伊統風土記』に2説ありとの記載がある。昔、鏡を御神体とし、楠木正成公が遠見して鏡を埋めたという言い伝えと光滝寺本堂の横にあった多宝塔が経塚であるという言い伝えがある。	和歌山県 橋本市
	こうたきじかつどくのだわ 光滝寺仏徳多和 あんらくぎょうほん 安楽行品	市名勝		大阪府 河内長野市
15	いわきさん 岩湧山 しゅうじゅうほん 従地湧出品	府名勝	葛城修験15番経塚。地の中から多くの菩薩達が現れてくることに由来し、品の名がこのようになったといわれている。	大阪府 河内長野市
16	なれたにこんごうどうじ 流谷金剛童子 によらいじゅうりょうほん 如来寿量品	未指定 (史跡)	葛城修験16番経塚。石祠の中に地藏菩薩と金剛童子が祀られている。代官屋敷跡といわれる石垣も残る。	大阪府 河内長野市
17	あまみふどう 天見不動 ぶんべつとくほん 分別功德品	未指定 (史跡)	葛城修験17番経塚。現在は、祠の中に50cmほどの石の不動尊と石仏が祀られているが、以前は鉄剣も奉納され、8月には餅まきも行われていた。	大阪府 河内長野市
18	いわきせきしょうづかやま 岩瀬経塚山 ずいきくどくほん 随喜功德品	未指定 (史跡)	葛城修験18番経塚。経塚山の山頂に和泉砂岩の石碑がたち、西面して亡霊供養塚が祀られている。	大阪府 河内長野市
19	じんがくさん 神福山 ほっしきくどくほん 法師功德品	未指定 (史跡)	葛城修験19番経塚。神福山は葛城七童子の一つ、常行童子の霊地であり、この童子は修行する者を護持するといわれる。	奈良県 五條市
20	いしでらあと 石寺跡 じょうみきしょうぼくほん 常不軽菩薩品	未指定 (史跡)	葛城修験20番経塚。葛城修験には珍しく大岩をそのまま経塚としている。	奈良県 御所市
21	こんごうざん 金剛山 によらいじんりきほん 如来神力品	未指定 (史跡)	葛城修験21番経塚。木柵で囲まれ、1.5mの石積みの上に石壇があり、90cmの花崗岩の石碑がたつ。近くには転法輪寺があり、神仏一体として山頂に祀られていた修験の山とみることができる。	奈良県 御所市
22	みずこしたわ 水越多和 ぞくゐほん 囑累品	未指定 (史跡)	葛城修験22番経塚。7本の巨大な杉の根元にあり、花崗岩石段上の木造銅板葺きの祠に地藏尊が祀られている。近くには、役行者生誕の地、吉祥草寺がある。	奈良県 御所市
23	く 俱戸羅 やおうぼくほんじんほん 薬王菩薩本事品	未指定 (史跡)	葛城修験23番経塚。高さ1mほどの五輪塔があり、周囲には、石碑や地藏石仏などが祀られている。	奈良県 御所市
24	いらいしづめ 平石峠 みょうおんぼくほん 妙音菩薩品	未指定 (史跡)	葛城修験24番経塚。役行者と不動明王の石仏2体が祀られている。周辺には、役行者の伝説が語られる久米の岩橋、鍋釜石や胎内くぐり岩などの奇岩が多く見られる。	大阪府南河内郡 河南町
25	こうきじこうげぼた 高貴寺香華畑 かんせおんぼくほん 観世音菩薩普門品	未指定 (史跡)	葛城修験25番経塚。60cmほどの石祠の中に不動明王が祀られている。経塚のある高貴寺は役行者開基との伝承。	大阪府南河内郡 河南町
26	にじょうざん 二上山 だにほん 陀羅尼品	未指定 (史跡)	葛城修験26番経塚。二上山雄岳の山頂に位置する。榊に囲まれた中に、15個ほどの自然石の土盛があり、その最上段に平坦な石が南面して置かれ、安山岩の立石がたつ。	奈良県 葛城市
27	おうさか 逢坂 みょうしゅうごんのうほんじん 妙莊嚴王本事品	市有形建造物	葛城修験27番経塚。個人邸内にある凝灰岩製層塔(総高 179.0cm)で、鎌倉時代初期の建立である。	奈良県 香芝市
28	かめ 亀の尾宿 ふげんぼくほん 普賢菩薩勸発品	未指定 (史跡)	葛城修験28番経塚。かつて水運の要所で港・貨物集積所であった場所にある。	大阪府 柏原市
	みょうじんやま 明神山 ふげんぼくほん 普賢菩薩勸発品	未指定 (史跡)		

番号	ふりがな 文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所 在地(※4)
行所等 (国指定)				
29	か だ か す か じ ん じ ゃ 加太春日神社	国重文 (建造物)	役行者が友ヶ島を行所として開いたとき、守護神としたことから、葛城修験の行者が必ず立ち寄り、正式参拝を行う。現在の本殿は戦国時代末に建てられ、海浜の神社らしく伊勢海老などの彫刻がみられる。	和歌山市
30	ね ころ 根来寺	国宝 (大塔) 国重文 (大佛堂多数) 国史跡 (境内)	中世の終わりには、その当時、最も強大な修験集団があったといわれている。根来寺にある行者堂の本尊は役行者。修験者の拠点であった名残がある。現在も、葛城修験の修行を行う行者たちが訪れ、お札を納め参拝を行っている。	和歌山県 岩出市
31	こな かわ 粉河寺	国重文 (建造物)	粉河寺衆徒は中世には、当山派の三十六先達として活躍。粉河寺境内には行者堂があり春の入峰には修験者により勤行が行われる。粉河寺鎮守粉河産土神社の祭礼で紀州三大祭りの一つでもある粉河祭(毎年7月最終土・日に開催)には役行者に使役した前鬼の子孫である中津川の禰宜16人が参加。禰宜が八目草鞋をはいて産土神社の拝殿にあがり祝詞をあげることで祭りは始まる。	和歌山県 紀の川市
32	ひ の の し ょ う 日根荘 お お ぎ の う そ ん け い かん 大木の農村景観	国史跡 国重要文化的景観	日根荘は有力貴族の九条家の荘園であり、16か所が国の史跡指定。犬鳴山七宝瀧寺を含む大木地区は重要文化的景観「日根荘大木の農村景観」に選定されている。葛城修験の影響を受けた地域。	大阪府 泉佐野市
33	ひ ば し ゃ じ ん じ ゃ 火走神社	国史跡	1501年に日根荘入山田村長福寺に滞在した九条政基が残した日記『政基公旅引付』には、瀧宮(火走神社)に七宝瀧寺の寺僧(山伏)がきて雨乞いを行ったと記されている。	大阪府 泉佐野市
34	お ぐ け じ ゃ ち ゃ く 奥家住宅	国重文 (建造物)	江戸時代前期に建てられた豪農の館。聖護院の修行休息所。関連資料が残る。	大阪府 泉佐野市
35	まつ お し 松尾寺	国重文 (美術工芸品) 府指定 (史跡、建造物、 美術工芸品、天然記念物) 市指定 (美術工芸品)	松尾寺の由緒では、役行者がはじめに本尊を作ったとされる。松尾寺所蔵の役行者像(鎌倉時代)は市指定文化財。	大阪府 和泉市
36	まつ お し さん せ ぶ くに 槇尾山施福寺	国重文 (美術工芸品) 府指定 (美術工芸品) 市指定 (美術工芸品)	葛城修験道のルート近くに所在する、西国三十三所4番札所。空海の捨身説話が伝わっており、修験者の行所でもあった。	大阪府 和泉市
37	に う つ ひ の じん じ ゃ け だい 丹生都比売神社境内	国史跡	高野山系修験の葛城入峰は、天野-吉野-熊野-葛城を巡る広大なものであったが、天野では、丹生明神を笈に移す「吹き送り」があり、この笈を背負って山中修行に入った。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町
38	あ み だ とう 阿弥陀堂	国指定 (建造物)	上述した聖護院宮を迎え入れた際、阿弥陀堂の前で茶をわかし、大勢なので汲み飲みにした。堂内には護摩札が、また建物自体にも葛城修験関係と目される墨書が残されている。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町
39	い わ ぶ ぎ 岩湧寺	国重文 (建造物) 市有形 (建造物)	役行者が開基した寺。山伏の修験道場として栄え、境内には本堂と多宝塔がある。	大阪府 河内長野市

40	草谷寺	国指定(美術工芸品) 市指定(美術工芸品)	縁起に役行者の創建と伝わる。平安時代作の薬師如来立像など重要文化財3軀、五條市指定文化財2軀の仏像が、収蔵庫に安置されている。その昔、村を苦しめた龍が一人の修験者に退治されて頭・胴・尾の3つが山中に落ち、それぞれに寺が建立されたという伝説があり、本寺は龍尾寺(『葛城峯中記』の辰尾寺)に当たるとみられる。	奈良県 五條市
41	金剛山	国史跡	役行者が修行した山。頂上付近には役行者開基と伝わる転法輪寺が所在する。	奈良県 御所市
42	當麻寺	国宝 (當麻曼荼羅他) 国重文多数	當麻の真人国見が685年役行者から練行地であった現在地を譲ってもらい建立。以前は女人禁制であった。四天王は役行者が呼び寄せたとの説もある。そのため本堂には役行者像が祀られている。	奈良県 葛城市
43	當麻寺中之坊	国史跡・名勝	役行者開山の中之坊には行者の秘薬である「陀羅尼助」が伝わり昭和初期まで精製していた。役行者が同坊に残る井戸を加持し、その水と薬草を併せたものが「陀羅尼助」の始まりといわれている。	奈良県 葛城市
行所等(国指定外)				
44	観念窟	未指定 (史跡)	友ヶ島の第2の行所であり、海に面した断崖を登ると、荒波により穿たれた洞窟があり、江戸時代の石碑が残る。断崖には、江戸時代に紀州藩の初代藩主・徳川頼宣の命により、友ヶ島の5ヶ所の行所を記した「五所の額」が刻まれている。	和歌山市
45	深蛇池	県天然記念物	役行者が友ヶ島の蛇池に住む大蛇を退治したといわれる。今はススキの生い茂る湿地地帯であり、中央に封じ込め岩がある。	和歌山市
46	関伽井跡	未指定 (史跡)	友ヶ島の5ヶ所の行所の一つ。元は仏前に備える用水を汲む場所とされ、井戸はないが、江戸時代に立てられた石碑が残る。	和歌山市
47	神島剣池	未指定 (史跡)	友ヶ島の5ヶ所の行所の一つ。神話において日本を創造したという少彦名命と大己貴命の祠が神島(淡島)に祀られたことが、淡島神社の起源とされる。	和歌山市
48	加太春日神社 えび祭り	未指定 (無形民俗)	葛城修験はじまりの地、和泉山地の西端で海に面する加太では、漁業を生業とする。その氏神であり修験の守護神でもある加太春日神社の春の例大祭では、かつて神前に伊勢海老が奉納され、大漁が祈願されたことから、えび祭りと呼ばれる。現在は5月第3土曜日に神輿渡御が行われ、宝太鼓を先頭に獅子舞や長刀振りなど各々の催し物を御旅所で披露しながら加太の町を巡幸する。	和歌山市
49	紀州加太浦 「探燈大護摩供」	未指定 (無形民俗)	毎年4月、聖護院の春の峰入りに合わせて、加太北ノ浜では大護摩供が行われる。一時期、途絶えていた伝統を、近年に地域の住民が加太浦大護摩供顕彰会として復興した。厄除・家内安全・交通安全・身体健全・学力増進・海上安全が祈願され、多くの観覧者で賑わう。	和歌山市
50	阿字ヶ峰行者堂	未指定 (建造物)	修行の地、友ヶ島が眺められる高台にある、開祖役行者を祀るお堂。今も修行を行う行者達が訪れ、参拝を行う。	和歌山市

51	加太淡島神社 かたあわしまんじや	未指定 (史跡)	全国に広がる淡島神社の総本社で、人形 供養が有名。加太の行所の一つで、今も 修験者が参拝を行う。	和歌山市
52	常行寺 じょうぎょうじ	県天然記念物	中世、加太にあった伽陀寺は葛城二十八 宿第一品の地とされたが、戦国時代末の 羽柴秀吉の紀州攻めにより焼失し、その本 尊が常行寺に移されたと伝わる。	和歌山市
53	西念寺 さいねんじ	未指定 (建造物)	葛城二十八宿の二ノ宿として、修験者を迎 える。二十八宿第二品の神福寺が廃寺と なった後、その十一面観音が西念寺に移 されたという。	和歌山市
54	鳴滝山圓明寺 (鳴滝不動尊) なるたきさんえんめいじ (なるたきふどうそん)	未指定 (建造物)	葛城二十八宿第三品の大福山の麓に位 置し、役行者が開基と伝わる。その行所 である滝の名から、この地が鳴滝と呼ば れる。中世、根来寺の末寺となり、中世末 には根来寺と同じく秀吉の紀州攻めを受 けたという。	和歌山市
55	大福山本恵寺 (直川観音) だいふくさんほんえいじ (のうがわかんおん)	未指定 (建造物)	役行者が開基し、本尊の千手観世音菩薩 像は役行者の作と伝わる。葛城二十八宿 第三品の大福山の登り口に位置し、大福 山と号す。奈良時代に桓武天皇の勅願寺 となったという古刹。春の観音会式では、 大餅投げが風物詩となっている。	和歌山市
56	墓の谷行者堂 はかたにぎやうじやどう	未指定 (建造物)	役行者が大峰山で修行をした際、母の 白毒女がその後を追ひ、この地で没した ため「墓の谷」と呼ばれたという。現在も母 が子の大成を願う霊地として信仰される。	和歌山市
57	中山王子跡 なかもろおこぎ	未指定 (史跡)	葛城修験の道ともう一つの信仰の道である 熊野古道が交差する滝畑では、熊野参詣 道紀伊路の中山王子跡が行所の一つとな っている。	和歌山市
58	慈眼院 じげんいん	未指定 (史跡)	役行者作で秘仏とされる十一面観音が祀 られている。	大阪府泉南郡 岬町
59	高仙寺 こうせんじ	未指定 (史跡)	役行者の母の墓と伝えられる石積が残さ れている。	大阪府泉南郡 岬町
60	根来寺伽藍古絵図 ねごろじがらんこえず	県有形 (歴史資料)	峯入道が描かれており、葛城信仰が受け 継がれていることが分かる。ねごろ歴史資 料館でレプリカを展示。	和歌山県 岩出市
61	中津川行者堂 なかつがわぎやうじやどう	未指定 (建造物)	葛城修験において、葛城灌頂という特殊 な儀式が行われてきた重要拠点。今も中 津川の集落の人々が守り続け、4月には 修験者によって護摩供が行われている。	和歌山県 紀の川市
62	熊野神社 くまのじんじや	市指定建造物	『紀伊続風土記』に、近世、社の造営を聖 護院が行い、また大護摩修行も行われた とある。中津川村の絵図には護摩鉢が描 かれている。神社まで石道標もある。	和歌山県 紀の川市
63	犬鳴山 (七宝瀧寺) いぬなきさん しっぽうりゅうじ	府名勝	葛城二十八宿修験道の根本道場。斉明 天皇7(661)年役行者が開基。大和大峰山 より6年早く開山し、元山上と呼ばれる。俱 利伽羅大竜王を本尊とする。行者の滝に は男女問わず全国より修験体験に訪れる 人が年中絶えない。修験道会館資料館併 設。指定文化財等の寺宝を展示する。「義 犬伝説」により山号「犬鳴山」を宇多天皇よ りいただく。	大阪府 泉佐野市

64	葛嶺雜記	未指定 (歴史資料)	名称や位置が流動的であった葛城二十八宿を踏査した智航上人が嘉永2年に著した嶺中記で、七宝瀧寺にあった葛嶺雜記を、大坂の和泉屋藤兵衛が版を起こし、嘉永3年に出版した。葛城二十八宿とその行程が記され、この本によって「葛城二十八宿」の名称や位置を比定することができた。現在、犬鳴山七宝瀧寺では嘉永3年当時の版本を所蔵する。	大阪府 泉佐野市
65	政基公旅引付	未指定 (歴史資料)	1501年に日根荘入山田村長福寺に滞在した九条政基が残した日記『政基公旅引付』では、瀧宮(火走神社)、七宝瀧寺での雨乞いの儀式が書かれている。	大阪府 泉佐野市
66	行者の滝を含む7つの滝	未指定 (名勝)	寺号「七宝瀧寺」の由来。淳和天皇(824～834)の時代、全国的な干ばつ時に犬鳴山での祈願が行われ、泉州一円は雨に恵まれたという。そこで、天皇は、犬鳴山中にある行者の滝を含む著名な七つの滝を金銀などの七宝にちなんで、七宝瀧寺と命名した。行者の滝では毎年8月に行者と一般参加者が一堂に会し、入滝を行うお滝まつり滝行大護摩供が行われている。	大阪府 泉佐野市
67	葛城踊り	府無形民俗	和泉葛城山頂に鎮座する八大竜王社(高おがみ神社)に、雨乞いや降雨に感謝する雨礼のために奉納するものである。	大阪府 岸和田市
68	意賀美神社 雨降り <small>の滝</small>	市天然記念物	意賀美神社雨降り <small>の滝</small> は、役行者ゆかりの神於寺縁起で有名な神於山裾に位置する岸和田市域の重要な水源地。意賀美神社の社伝によれば陽成天皇が、元慶8(884)年大旱魃のとき、菅原道真に降雨を祈らせたことから「雨降り大明神」とも呼ばれる。日照りに、村人がこの水をさらえて神前に祈ると、必ず雨が降ったことから、地元では雨の神様として知られる。この滝に汚物を放り込むと竜神の怒りで雨が降るとも言われている。	大阪府 岸和田市
69	笹踊り	未指定 (無形民俗)	中世の頃から伝わる、大阪府南部、旧和泉国いわゆる泉州地域に数多く伝承されていた「風流太鼓踊り」の芸脈を引くもので、華麗な衣装をつけ、しめ太鼓や笛などの楽器を伴奏として歌い踊る雨乞い踊りのひとつ。	大阪府 和泉市
70	堀越 <small>の</small> 観音	未指定 (建造物)	役行者が癩病を患った母の回復を願って彫った十一面観音菩薩が本堂に鎮座する。毎年5月3日に開催される躑躅祭では、柴燈護摩祈祷と火生三昧修行が行われ、犬鳴山の修験者が法螺貝を吹き行者問答の後、弓矢や剣で清めの儀式を行い大護摩に点火。焼けた護摩木を並べ火渡り修行を行う。多くの参詣者が訪れる。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町
71	葛城蔵王権現社	未指定 (建造物)	かつらぎ町と大阪府河内長野市との境界、蔵王峠に鎮座している。7世紀末、役行者が修験道の行所を開いたところといわれている。4月に開催される春の例大祭では、各地より信者が集まり玉串奉納、護摩供養、盛大な餅まきが行われる。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町
72	天女山正楽寺	未指定 (史跡)	聖護院宮が、嘉永2(1849)年の役行者1150回忌における箕面山滝安寺での法事の帰途、葛城修験ルートの一部を巡った。そのうちのひとつである天女山正楽寺では、宮を迎えて昼食が献じられた。その際の二畳台や戸帳の幕などは、和歌山から運ばれてきたものであった。	和歌山県伊都郡 かつらぎ町

73	おみね 小峯寺	未指定 (建造物)	役行者の開基といわれ古くから修験道の行所だった古刹。役行者母公墓と伝わる十三重の塔がある。毎年3月には秘仏である馬頭観世音菩薩の御開帳がある。	和歌山県 橋本市
74	ふどうやま 不動山の巨石	未指定 (史跡)	集落の外れから635段の階段を登りつめた先にある行所。役行者が葛城山から吉野金峯山寺へ橋を架けようとし、一言主神に命じて石を集めさせた跡と伝わる。	和歌山県 橋本市
75	とうかくじ 東覚寺 はちだいりゅうおう 八大龍王・葛城明神春祭り	未指定 (無形民俗)	4月末～5月上旬に行う葛城修験の本尊である葛城明神と水の神である八大龍王のための春祭りで、不動明王のために柴燈大護摩が行われる。以前は、龍王講が中心となっていたが、現在は春祭りの会員が中心となっている。見学可能。	和歌山県 橋本市
76	みやノ講と 葛城神社年越し行事	未指定 (無形民俗)	宮ノ講員が行う新年の行事で、大松明を造り、葛城神社より北へ100mほどいった場所にある滝で滝行を行う。	和歌山県 橋本市
77	まわり 行者まいり	未指定 (無形民俗)	毎年1月2日に水と半紙にミカン、祝柿、栢実を包み西の行者杉に参る。参拝後、下山の際に薪を拾いながら帰宅し、これを仕事始めとした。	和歌山県 橋本市
78	ひかりのたまり 光滝寺	市名勝	役行者が36歳の時、ここで修行し葛城修験の行所として開いたといわれる。境内には不動明王を祀る本堂などがたつ。	大阪府 河内長野市
79	こうたまたま 光滝寺炭焼不動尊	市有形民俗	不動明王が老翁に化身し、寺の住職に白炭の焼き方を伝授したことに由来する。	大阪府 河内長野市
80	おおいのくさし 大澤寺	県指定(美術工芸品) 市指定(美術工芸品)	19番経塚のある神福山の南麓にあり、山号は「神福山」。本尊は、役行者が彫ったと伝える薬師如来立像(秘仏、平安時代、県指定文化財)。境内の琵琶ノ池の霊水が眼病に効くといわれ、「目の薬師」の信仰を集める。紅葉は、江戸時代(19世紀初め)の詩画帖『五條十八景』に「勢堂紅葉」として取り上げられるほど美しく、写真愛好家も多い。毎年1月7日に初薬師・行者会、5月5日に花会式が行われ、多くの参拝者で賑わう。	奈良県 五條市
81	ちのくさし 地福寺	未指定 (建造物)	明治時代初めの神仏分離などにより、明治4年、金剛山転法輪寺から本尊の法起菩薩立像を迎え入れ、翌年の旧暦6月7日から蓮華祭りが始まった。毎年7月7日に行われる現在の蓮華祭りでは、境内に護摩壇が生まれ、最初に行者がその四方に矢を射たり、護摩壇に斧で切り付けたりする。参拝者は、足元に射られた矢を縁起物として持ち帰る。その後、護摩壇に点火され、住職や行者が参拝者の供えた護摩木を投げ込む。煙の流れる方角でその年の豊凶を見るという。	奈良県 五條市
82	たもん 多聞寺跡	未指定 (史跡)	金剛七坊の一つ。転法輪寺まで続く千早道(現・千早本道)が始まる千早地区内に位置し、今でも修験者たちが参詣している。史跡内には、村民によってお堂が再建されている。	大阪府南河内郡 千早赤阪村
83	てんぽうりんじ 転法輪寺	未指定 (建造物)	金剛山の葛木岳山頂の西方にあって、役行者の開基と伝わっている。明治の初めまで女人禁制で、天台・真言宗の修験の地である。毎年7月7日の役行者の命日に開かれるれんげ大祭では蓮華をお供えし、柴燈護摩を厳修し、役行者に報恩感謝をささげる。その後に行われる「火渡り修行」は一般参拝者も参加できる。	奈良県 御所市

84	吉祥草寺 きつようそうじ	未指定 (建造物)	寺のある茅原は役行者の出生の地であり、吉祥草寺は役行者を開基と伝える。「役行者三十二歳像」、「役行者母公像」が祀られている。産湯井戸、行者の腰掛けなどの名所も多い。小正月に行われる左義長大法要(茅原の大トンド)は、雌雄一対の大松明を作り、法要の後にこれを燃やして、その年の天下泰平・五穀豊穰・人類和合を祈る。1300年以上続く伝統行事として県無形民俗文化財に指定。	奈良県 御所市
85	葛城一言主神社 かつらぎひとことぬしじんじや	未指定 (建造物)	全国各地の一言主神を奉斎する神社の総本社。祀られている一言主は、一言で願いを叶えてくれる神として崇敬されている。人々からは「いちごんさん」と呼ばれている。この神は、役行者が金峯山に橋を架ける工事をした際に、顔が醜いという理由で、夜間のみ工事に従事したために、役行者によって呪縛された神でもある。699年に役行者が伊豆に配流されたのは、不満を抱いた一言主が朝廷に讒言をしたためであるという。	奈良県 御所市
86	當麻寺竹之坊 たまたでたけのぼう	未指定 (建造物)	本尊は役行者。約30年前までは、行者が修行の祈願に訪れていた。	奈良県 葛城市
87	高雄寺 たかおでら	県指定 (美術工芸品)	役行者開基。本堂は平成11年1月、放火により焼失し、現在、収蔵庫のみが残る。鎌倉時代作の役行者像は県指定文化財で、収蔵庫にて保管。	奈良県 葛城市
88	どんづる峯 いづる	県指定 (天然記念物)	二上山の26番経塚から亀の瀬に至る最短ルートで、古代の大坂越えに位置する。二上山の火砕流堆積物の露出地帯で、奇岩景勝地。葛城修行の行所。	奈良県 香芝市
89	穴虫峠の馬頭観音 あなむしとうげ ばとうかんのん	未指定 (彫刻)	二上山の26番経塚から亀の瀬に至る最短ルートで、古代の大坂越えに位置する。祠には、石造馬頭観音坐像が祀られ、碑伝が奉納されている。	奈良県 香芝市
90	観音寺、三輪神社 かんのんじ あわしんじや	未指定 (建造物)	二上山から亀の瀬に至る最短ルートに位置し、27番経塚があった可能性が指摘される。観音寺は、楠木正成ゆかりの木造十一面千手観音立像を祀り、隣接する三輪神社には、碑伝が奉納される。	奈良県 香芝市
91	関屋地藏尊 せまや ぞうぞん	未指定 (彫刻)	長尾街道と明神山を経て亀の瀬に至る最短ルートの分岐点に祀られている。祠には、石造地藏菩薩坐像が祀られ、碑伝が奉納されている。	奈良県 香芝市

(※1) 文化財の名称には振り仮名を付けること。

(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形、未指定(建造物)、等)。なお、**未指定であっても文化財保護の体系に基づいた分類を記載**すること。

(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

経塚

①友ヶ島 序品窟



②神福寺跡 方便品



③大福山 譬喩品



③雲山峰 譬喩品



④さくら地蔵 信解品

文安 5(1448)年銘石碑



奉納大乘妙典碑



⑤倉谷山 薬草喩品



⑥志野峠 授記品



⑦中津川 化城喩品



⑧犬鳴山七宝瀧寺鈴杵ヶ嶽
五百弟子受記品



⑨嶺の龍王
授学無学人記品



⑩大威徳寺 法師品



⑪七越峠経塚山
見宝塔品



⑫護摩のたわ朴留
堤婆達多品



⑬向い多和 勸持品



⑭南葛城山鏡宿
安楽行品



⑭光滝寺仏徳多和
安楽行品



⑮岩湧山 從地湧出品



⑯流谷金剛童子 如来寿量品



⑰天見不動 分別功德品



⑱岩瀬経塚山 随喜功德品



⑲神福山 法師功德品



⑳石寺跡 常不輕菩薩品



㉑金剛山 如来神力品



㉒水越多和 囑累品



㉓俱尸羅 薬王菩薩本事品



㉔平石峠 妙音菩薩品



㉕高貴寺香華畑 観世音菩薩普門品



㉖二上山 陀羅尼品



㉗逢坂 妙莊嚴王本事品



㉘亀の尾宿 普賢菩薩勸発品



㉙明神山 普賢菩薩勸発品



行所等 (国指定)

29 加太春日神社



30 根來寺



31 粉河寺



32 日根荘 大木の農村景観



33 火走神社



34 奥家住宅



35 松尾寺



36 横尾山 施福寺



37 丹生都比売神社境内



38 阿弥陀堂



39 岩湧寺



40 草谷寺



41 金剛山



42 當麻寺



43 當麻寺中之坊



行所等 (国指定外)

44 観念窟



45 深蛇池



46 関伽井跡



47 神島剣池



48 加太春日神社 えび祭り



49 紀州加太浦「採燈大護摩供」



50 阿字ヶ峰行者堂



51 加太淡島神社



52 常行寺



53 西念寺



54 鳴滝山圓明寺 (鳴滝不動尊)



55 大福山本恵寺 (直川観音)



57 中山王子跡

56 墓の谷行者堂



59 高仙寺

58 慈眼院



60 根來寺伽藍古絵図



61 中津川行者堂



62 熊野神社



63 大鳴山 (七宝瀧寺)



64 葛嶺雑記



65 政基公旅引付



66 行者の滝を含む7つの滝



67 葛城踊り



69 籠踊り



70 堀越瀬観音



73 小峯寺



68 意賀美神社 雨降りの滝



71 葛城蔵王権現社



72 天女山正楽寺



74 不動山の巨石



75 東覚寺 八大龍王・葛城明神春祭り



76 宮ノ講と葛城神社年越し行事



77 行者まいり (西の行者杉)



78 光滝寺



79 光滝寺炭焼不動尊



80 大澤寺



81 地福寺



82 多聞寺跡



83 転法輪寺



84 吉祥草寺



85 葛城一言主神社



86 當麻寺竹之坊



87 高雄寺



88 どんづる峯



89 穴虫峠の馬頭観音



90 観音寺、三輪神社



91 関屋地藏尊

